

1 - 【1】資料・情報の提供（貸出し・閲覧・予約・レファレンス）

令和7年度第1回オーテピア高知図書館サービス計画推進委員会



概要

- 一般図書は、国内年間出版点数の5割以上を収集、雑誌や新聞は、2,000タイトル以上の収集を目指します。
- 電子図書館のサービスは、コンテンツの充実や視聴覚資料やデータベース、デジタル化した資料などの電子媒体の資料の充実を図ります。
- ウェブ・サイトやSNS、チラシ配布、出前図書館のほか、動画やマンガなどの分かりやすいPR活動を実施します。

主な取組（R6.4/1～R7.3/31）

①資料の収集・提供

- ・図書等の購入は、令和5年度と同水準で推移。雑誌は、目標の2,000タイトル以上を確保。
- ※数値の詳細は、「サービス指標及び主な実績値（資料1）」及び各サービスの進捗管理シートに掲載。
- ・小説・児童書・文芸中心の電子書籍「高知県電子図書館」は7,831点、調べものに重点を置いた電子書籍「KinoDen」は4,540点を提供。
- ・和雑誌の音声読み上げ対応が大幅に減少したため、アプリ型の電子雑誌閲覧サービス「Kono Libraries」の提供を年度末で終了。
- ・GIGAスクール端末での活用と電子図書館の普及のため、「高知県電子図書館」のサービス周知を行った。

②貸出し・予約・リクエスト

- ・時宜にかなった展示活動を行う等、利用者のニーズに合わせた資料を紹介し、貸出しにつなげた。

③展示

- ※各サービスの進捗管理シートに掲載。

④利用ガイド

- ※各サービスの進捗管理シートに掲載。

⑤レファレンス

- ・図書館の広報紙や行政向けメルマガ等に「調べもの案内」の具体例を掲載し、「調べもの案内サービス」の利用を促進。
- ・レファレンス協同データベースへの事例登録を行った。（一般公開：27件、参加館公開：11件）

成果と課題（○：成果 ■：課題）

①資料の収集・提供

- 年間出版点数の5割以上収集の目標達成や、電子書籍サービスの有用性・利便性の向上のため、継続的な資料費の確保が必要。
- 県立学校の「高知県電子図書館」の利用登録はほぼ完了しているが、市町村は4市3町1村の登録にとどまっているため、さらなる周知が必要。
- リサイクル図書の配布
 - 市：小学校・放課後児童クラブ等にリサイクル図書（児童書）を譲渡。
 - 県：児童養護施設等（15施設）に展示期限を過ぎた児童図書選定支援用図書を譲渡。
- 除籍済資料の有効活用のため、リサイクル図書配布先の拡大が必要。
- 継続した資料収集・活用のため、収蔵スペースの確保が必要。

②貸出し・予約・リクエスト

- 令和8年3月の次期図書館情報システム稼働に合わせて、オーテピアアプリの改修が必要。

③展示

- ※各サービスの進捗管理シートに掲載。

④利用ガイド

- ※各サービスの進捗管理シートに掲載。

⑤レファレンス

- 関連機関への訪問や連携により、継続的なレファレンスの依頼につながっている。
- 利用者が自ら調べる力が向上し、所蔵の有無や調査に時間がかかるないクイックレファレンスの件数が減っていることもあり、レファレンスの全体的な件数は減少傾向にある。ただし、ピンポイントで広報したものについてはレファレンスが増えており、潜在的な需要に応えるためにも、今後とも継続して調べもの案内サービスのPRを継続的に行う必要がある。

サービス指標

リクエストの受付件数

電子図書館の閲覧回数（電子雑誌を含む）

R6年度（R7.3/31現在）	R8年度目標
3,307件	4,000件
52,896回	10万回

今後の取組

- ①・多様な資料を収集・提供する。
 - ・電子書籍サービスは、タイトルの充実を図ることとともに、各媒体の特徴を踏まえたPRを行う。
 - ・引き続き市町村教育委員会等に対して、学校の教職員や児童・生徒の「高知県電子図書館」への一括登録を働きかける。
 - ・児童図書選定支援用図書の譲渡について、児童福祉関係の諸機関に対する、案内の範囲や方法などを検討。
 - ・県市で重複して所蔵している資料の抜き出しに加え、外部書庫の運用についても検討。
- ②・アプリの応答などの改善点について、システムベンダーと打ち合わせを行う。
- ③※各サービスの進捗管理シートに掲載。
- ④※各サービスの進捗管理シートに掲載。
- ⑤・調べもの案内サービスについてのPRを継続。
 - ・レファレンス協同データベースへの事例登録を促進。

特記事項など

1-【2】情報リテラシーの向上支援

概要

○実際に資料や情報を参照することができる図書館のメリットと司書の専門性を生かし、情報社会において求められる情報リテラシーの習得や向上を支援します。

サービス指標

パスファインダーの提供数
データベースの利用件数

R 6年度 (R7.3/31現在)

37種

2,777件

R 8年度目標

65種

5,000件

主な取組 (R6.4/1~R7.3/31)

①図書館活用講座の実施

- ・オーテピアアプリの使い方を説明する情報リテラシー初級講座を実施（5月から隔月）。
- ・ウェブ・サイトでの蔵書検索方法を紹介する情報リテラシー中級講座を実施（9/8）。
- ・健康・安心・防災情報サービス担当と連携し、ヘルス・リテラシーをテーマとする情報リテラシー上級講座を実施（3/9）。
- ・ウェブサイトでの蔵書検索方法等を紹介する動画を6本作成し、YouTubeで公開。新規
- ・学校や団体に対して図書館活用講座を実施。
例：高知県新規採用職員研修・主査研修、高知市（こうち人づくり広域連合）新規採用職員研修、土佐リハビリテーションカレッジ（高知健康科学大学）等

②利用ガイド（パスファインダー、ガイドブック等）の作成・提供

- ・「パスファインダー作成促進プロジェクト」のメンバーを中心に、テーマを検討。
- ・出前図書館や企画展示資料の利用促進のため、ブックリスト12種を改訂、18種を新規作成。新規

③連携事業等での情報リテラシー向上支援の実施

- ・学校等の図書館見学や職場体験の際に、情報リテラシーに関する説明を行ったほか、連携事業や出前図書館等で図書館の活用方法を説明。
- 例：「高校生ビジネスプラン・グランプリ」プラン作成講座（7/27、8/22）。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

①図書館活用講座の実施

- レベル別の情報リテラシー講座を実施することにより、図書館の活用方法、情報検索方法、情報の評価・選択方法を学ぶ機会を提供できた。
- 医療系の学校に対して、データベースの活用など、今後の授業や就職後に必要となるスキルの説明・演習を行い、学校側から高い評価を得るとともに、データベースの利用にもつながった。

②利用ガイド（パスファインダー、ガイドブック等）の作成・提供

- ウェブ・サイトを使った基本的な蔵書検索方法や検索のコツについて動画で紹介することにより、利用者はもとより、日頃からウェブ検索をする機会が多い市町村立図書館等の職員に対しても情報提供ができた。
- パスファインダーの提供については、目標数との乖離があるため、検討したテーマのパスファインダーの作成が進むようにサポートを行う必要がある。

③連携事業等での情報リテラシー向上支援の実施

- 図書館見学や職場体験等の際に、情報へのアプローチ方法や情報の評価能力について学ぶ機会を提供できている。
- 館内の貸室で行われるイベントや出前図書館の機会を通じて、図書館の活用に関するPRができている。



情報リテラシー上級講座
「健康への第一歩、図書館で始めよう！」



学校や団体向けの図書館活用講座

今後の取組

- ①・情報リテラシー初級講座では、アプリの使い方講座に加え、受講者から要望があった電子書籍の使い方講座を実施する。
- ・情報リテラシー中級講座・上級講座では、利用者のニーズも見極めたテーマを設定し、実績を生かして内容の充実を図る。
- ②・「パスファインダー作成促進プロジェクト」のメンバーを中心に進捗状況見える化し、各サービスでの作成作業やアイデア出しのサポートを行う。
- ・引き続き情報リテラシーの向上に役立つ動画を作成する。
- ③・各サービス担当の連携事業を通じて、引き続き図書館活用講座等を行うなど、利用者の情報リテラシー向上支援に取り組む。

特記事項など

2-【1】ビジネス支援サービス

概要

- 経済や経営、就業、起業、転職等、課題解決に役立つ6~7万冊の書籍、専門誌、データベース等のビジネスに関する資料・情報を提供します。
- 気軽に相談できるビジネス支援デスクを設置し、担当司書が、情報収集や調べものをサポートします。
- ビジネスに役立つ講座や相談会等を専門機関等と連携して開催するとともに、図書館活用講座等を実施します。

サービス指標

ビジネス・農業・産業支援分野でのレファレンス件数

R 6年度 (R7.3/31現在)

1,502件

R 8年度目標

2,400件

主な取組 (R6.4/1~R7.3/31)

- ①図書の収集・提供
 - ・分館・分室にビジネス分野の本を提供。
 - ・金融機関等への団体貸出を実施。
 - ・高知みらい科学館と連携した常設展示を実施 (7/2~) 新規
 - ・パスファインダー4種改訂、2種作成。
 - ・ブックリスト2種作成。
 - ・職業ガイドコーナーのリニューアル実施。

②アウトリーチ・サービスの実施

- ・産業支援、移住促進等の関連団体への訪問等により、図書館活用について説明。
- ・『高知市労働ニュース』(3月号)にビジネス支援サービスの紹介記事を掲載。

③ビジネス支援サービス活用講座の実施

- ・市町村立図書館向けのビジネス支援サービスに関する研修を実施 (9/19)。
- ・関係機関等に図書館PRや出前図書館を実施。
- ・土佐MBA専科講座「図書館をビジネスに生かす」を実施 (2/7)。

④他機関と連携したセミナー・相談会等の事業の実施

- ・まちかど就農相談、若者サポートステーション進路相談会。(毎月)
- ・「ジョブカフェこうち出張相談会」をジョブカフェこうちと共催で実施 (7/6) 新規
- ・「高校生ビジネスプラン・グランプリ」プラン作成講座を実施 (7/27、8/22)。
- ・「業界研究ガイドンス」(11/20、11/27)等で出前図書館を実施。

成果と課題 (○: 成果 ■: 課題)

①図書の収集・提供

- 分館・分室での展示により、地域の利用者がビジネス分野の資料を手に取る機会を増やすことができた。月平均100冊程度を分館・分室に提供している。
- 団体貸出では、専門書や司書のおすすめ本を連携先に紹介することで、継続的な利用につなげることができた。
- 高知みらい科学館の触れる化石等を関連本と合わせて展示することによって、より専門的な視点からの資料提供ができた。

②アウトリーチ・サービスの実施

- 高知県商工会連合会等の関連団体や企業に、各種サービスの紹介ができた。

③ビジネス支援サービス活用講座の実施

- 市町村立図書館向けの研修で、資料や商用データベースを実際に利用してもらうことで、ビジネス支援サービスへの理解を深めてもらうことができた。
- 企業や学生に、データベースや当館のレファレンスサービスを紹介できた。
- 活用講座の実施回数が増えていないため、PRのあり方を含め、サービスの潜在的な需要を掘り起こす方法の工夫が必要。

④他機関と連携したセミナー・相談会等の事業の実施

- 各種相談会の開催により、主催団体や参加者に図書館の活用についてPRできた。
- 出前図書館の実施など、関係機関と継続的な連携ができている。
- 市地域活性推進課主催の移住体験ツアーに図書館見学を組み込むことで、移住希望者にサービスのPRができた。



「ものメッセKOCHI2024」でデータベース等を紹介



土佐MBA専科講座でビジネスに役立つ図書館の使い方を紹介



高知市の移住体験ツアーで図書館の活用について説明

今後の取組

- ①・パスファインダーを作成する(年2種)。
- ②・関係機関への訪問等により、ビジネス支援サービスの説明を行い、利用を促進。
- ③・関係機関からのレファレンス回答の際に、活用講座に関する情報を合わせて発信。
 - ・高知県教育だより『夢のかけ橋』で商業系の学校向けに活用講座の実施を呼びかける。
- ④・まちかど就農相談、若者サポートステーション進路相談会を継続して実施(毎月)。

主な連携先

こうち若者サポートステーション、県農業担い手支援課、県住宅課、県産業イノベーション課、市地域活性推進課、市産業政策課、放送大学高知学習センター、高知銀行、ジョブカフェこうち、高知県産業振興センターなど

特記事項など

- ・デジタル人材育成を目的とした「デジタルデザインコンテスト」を共催。
- ・市広報紙の移住促進をテーマとした記事の中で、ビジネス支援サービスが取り上げられた。

2-【2】健康・安心・防災情報サービス

概要

- 健康・福祉・防災等の分野の課題解決につながる資料・情報を提供・発信するとともに、図書館の活用方法を積極的に周知します。
- 専門機関等との連携によるイベントの開催、チラシ・パンフレットの配布や企画展示を行うことにより、利用者に情報を提供します。

サービス指標

健康・安心・防災情報分野での
レファレンス件数

R 6年度 (R7.3/31現在)	R 8年度目標(見直し前)
1,255件	2,000件(1,600件)

主な取組 (R6.4/1~R7.3/31)

- ①図書の収集・提供
- ・地震やスポーツなどのタイムリーな展示、発達障害、防犯等をテーマに専門機関と連携した展示を多数実施。
 - ・映画会担当との協働や、専門機関の依頼により、テーマに合った出前図書館を実施。 **新規**
 - ・パスファインダーとブックリストそれぞれにQRコードを載せ、相互参照を可能にした。 **新規**
- ②他機関と連携したセミナー・相談会等の共催事業の実施
- ・高知中央高校看護学科等の生徒を対象にデータベース活用講座等を実施。
 - ・高知健康科学大学等と連携して、県民・市民向けの講座等を実施。
 - ・高知リハビリテーション専門職大学との連携による公開講座を実施(年9回)。
 - ・市地域共生社会推進課等と連携して地域共生社会推進イベントを実施(8月)。
 - ・「ひきこもりピア相談会」を年3回実施。
 - ・例年、日中に実施している「がん相談会」を平日の夜間にも実施(10/16)。 **新規**
- ③アウトリーチ・サービスの実施
- ・市地域福祉活動推進計画の防災福祉部会勉強会に市全域サービス担当と共に参加し、出前図書館と図書館PRを実施。
 - ・高知県中央児童相談所を訪問し、サービスの説明を実施。 **新規**
 - ・高知労働局と連携し、図書展示を実施。 **新規**
- ④広報支援
- ・連携展示やパネル展等を通して、関係機関の啓発事業等の周知に協力。

成果と課題 (○: 成果 ■: 課題)

①図書の収集・提供

- 専門機関から、選書やブックリストに対して「こんな本があるのかと感心した」等の声や、作成済のブックリストをイベントで配布したい旨の連絡があった。
- 県民・市民の情報要求の高まりに応じて、迅速に情報提供できた。
- 出前図書館をきっかけに、来館経験の有無に関係なく、参加者全員に情報提供できた。**専門機関からのレファレンスの増加や連携の強化にもつながった。**
- 関係機関やイベント等に積極的にブックリストやパスファインダーを提供するなど、利用促進のためのさらなる工夫が必要。
- 最新情報を提供するため、必要に応じて随时、ブックリスト等の更新が必要。

②他機関と連携したセミナー・相談会等の共催事業の実施

- 活用講座では、学校から「今後も引き続き講座をお願いしたい」との声があった。
- イベント実施時に図書館PRの時間を確保することで、図書館の活用方法を周知できた。
- **相談会の開催により、支援を必要とする利用者と相談窓口をつなぐことができた。**
- 連携事業のより良い運営のため、連携機関への丁寧な説明と相互理解が必要。

③アウトリーチ・サービスの実施

- **市の所属をまたがる横断的な勉強会に参加することで、様々な部署に対して、図書館の活用方法やサービスを紹介できた。**
- **高知県中央児童相談所から出前図書館やブックリストの作成依頼があるなど、訪問を機に関係が深まった。**
- **これまでに関係を深めてきた連携機関からの紹介により、別の機関と新たなつながりを得ることができた。**

④広報支援

- 県や市の取組について広報できた。
- 連携機関と共に展示資料を選定することで、利用者に信頼性の高い情報を提供できた。
- 広報活動のために連携図書展示を実施したいという要請があった。



地元サッカークラブの応援展示



学生向け図書館活用講座



イベントでの出前図書館

今後の取組

- ①・ブックリスト等の更新・提供により、県民・市民、専門機関、行政の関係部署に向けた図書館活用の周知を継続的に実施。
・引き続き、利用者情報ニーズを把握し、収集した資料の活用を促進。
- ②・引き続き、関係機関と連携した事業を実施。
・「ひきこもりピア相談会」(6/1、11/2、3/8)
・「がん相談会」(10/2、10/12、10/22)
- ③・引き続き良好で対等な関係による連携機関との相互理解を深めていく。
- ④・広報支援を通して専門機関等との関係を深め、利用者への専門的な情報提供につなげる。

主な連携先

県障害福祉課、県立精神保健福祉センター、市健康増進課、高知市社会福祉協議会、高知健康科学大学、高知大学医学部附属病院、高知産業保健総合支援センター など

特記事項など

情報リテラシー担当と協働し、「健康情報の探し方講座」を実施。

2-【3】行政支援サービス

概要

○高知県庁と高知市役所の職員が、行政運営や政策立案を行う際の情報収集、調べものを図書館司書がサポートします。
○数多くの方が来館する強みを生かし、各組織・機関と連携した講座・イベントの開催やパンフレット等の配布を行い、行政の政策・施策の推進を支援します。

サービス指標

R 6年度 (R7.3/31現在)

R 8年度目標

18回

56回

主な取組 (R6.4/1~R7.3/31)

※個別サービスでの取組は各サービスのシートに掲載

①各組織・機関への貸出し

- 市立学校教職員向け（高校除く）の団体貸出について、5月の校長会にて再周知。
- はりまや橋小を訪問し、学校教職員へのサービス説明を実施（3/21）。 新規
- 各課、関係機関の利用動向把握のため、定期的な貸出冊数の抽出及び記録を開始。
- 役職名や事業単位での県市行政団体カード作成についての運用を定めた。 新規

②図書館活用講座等の実施

- 「新採職員研修」（こうち人づくり広域連合、県人事課）や「政策研究共同研修」（こうち人づくり広域連合）、「市教育委員会部局研修」で活用講座を実施。市「防災福祉部会」ではサービス説明を実施。
- 出前図書館「出張！オーテピア高知図書館 in高知市役所」を実施（12/26）。

③図書館活用事例の広報

- 各課向けサービスやおすすめ資料、レファレンス、広報協力などに関する図書館活用事例をメルマガ等で周知。
- 団体利用の活用事例まんがを作成。 新規

④各組織・機関と連携した取組の実施

- 各サービスにおいて、関係機関と連携して定期相談会や連携展示、ブックリストの作成等を実施。
- 各課の主催イベント等にて出前図書館や図書館PRを実施。
- 5月から毎月の県市広報紙の特集記事に合わせた関連本を常設展示。 新規

成果と課題 (○: 成果 ■: 課題)

①各組織・機関への貸出し

- 市立学校教職員向け（高校除く）の団体貸出の利用があった。
- 県心の教育センターや市人権・男女共同参画課などを中心に、団体貸出が継続的に利用されている。
- 団体カードの運用を定めたことで、市教育研究所の団体登録や利用が増加した。同研究所から、団体貸出の資料の読み聞かせが不登校児とのコミュニケーションに役立ったと報告があった。
- 市立学校教職員向け（高校除く）の団体貸出のさらなる周知と従来の学校向けの団体貸出との区別が必要。
- 図書館の利用の少ない課に対するPRが必要。

②図書館活用講座等の実施

- 政策立案の情報収集に図書館が活用できることをPRできた。
- 各サービスでの取組により、関係部署とサービス担当者がつながりを持ち、図書館の活用を促進する環境が整いつつある。
- 市教育委員会部局研修にて図書館活用講座を実施し、貸出しやレファレンス、学校支援に関する周知ができた（参加者13名）。
- 高知市役所での出前図書館の実施により、貸出しやレファレンス、データベース等に関する周知ができた。
(当日貸出:69冊、DB利用:5件、レファレンス:3件)

③図書館活用事例の広報

- 継続的なメルマガの発信により、サービスや活用事例などを効果的かつ充実した内容でPRできている。

④各組織・機関と連携した取組の実施

- 各課への訪問や連携をきっかけに、レファレンスや利用登録、連携展示等が増加した。
- 連携により各組織・機関との相互理解が深まったことで、ニーズの高い事項について正確な情報が提供できるようになり、課題解決に貢献できた。
- 行政機関主催イベントでの出前図書館で配布したブックリスト等について、他の行政課から市民啓発等に活用したいと声がかかった。
- 広報紙の特集に合わせた展示により、県市の重点的な施策について適切なタイミングで情報提供ができている。
県市広報紙特集記事関連本の展示
- 継続的な取組ができるよう、今後も各組織・機関との連携を深める必要がある。



今後の取組

- 利用が多い部署については、ニーズの高い事項を把握し、選書等に生かす。利用の少ない部署にはPRを継続的に実施。
オーテピア近隣の小学校への訪問を継続。学校教職員に団体貸出を直接PRする。
- 高知市役所本庁舎だけでなく、県庁などでも出前図書館の実施を検討。
新採職員研修での図書館活用講座を継続的に実施。
- 防災に関する活用事例まんがを新規作成する。

主な連携先

県：人事課、農業担い手支援課、雇用労働政策課、住宅課、精神保健福祉センター、地域福祉政策課、高知県警察本部

市：健康増進課、地域防災推進課、地域共生社会推進課、観光魅力創造課、地域活性化推進課、産業政策課

その他：こうち人づくり広域連合

特記事項など

令和5年度から行政レファレンスの統計をとる仕組みを構築 (R5:58件)。
令和6年度行政レファレンス件数：71件

2-【4】高知県関係資料の収集・保存・提供

概要

○高知県に関する資料を網羅的に収集し、各方面の利用に供するとともに、資料を生かし、県民・市民、観光客、移住希望者等に向けて情報発信します。
○貴重資料をはじめとするニーズの高い資料のデジタル化を進め、ウェブ・サイトで公開します。

サービス指標

高知県関連のレファレンス件数

R 6年度 (R7.3/31現在)
1,986件
(事項: 830、所蔵: 1,156)

R 8年度目標
4,400件

主な取組 (R6.4/1~R7.3/31)

①高知県にとって必要な資料の収集

- 「こうちミュージアムネットワーク」地域資料部会と連携し、県内資料の保存状態等の情報を共有。

②図書以外の資料の収集

- 展示コーナーで県内市町村を紹介するため、各市町村に観光パンフレット等の寄贈を依頼。
- 県や市町村に対し、提供可能な行政文書等の資料の寄贈を依頼。
- 県のデジタル行政資料の収集と提供に関する県庁内ワーキンググループのメンバーとして、仕組みづくりについて協議。

③貴重資料等のデジタル化

- 県立図書館所蔵の「森家旧蔵資料」や谷秦山ゆかりの資料等68点をデジタル化。
- 市民図書館に寄贈された『高知県史蹟資料集録』使用写真等をデジタル化。

④デジタル化された貴重資料の提供

- 展示室で貴重資料の複製パネル展示を実施(7/28~9/29)。
- 「桂井和雄資料」を収蔵品検索データベースで公開(目録のみ)。
- 収蔵品検索データベースでの「図書館のおすすめ」(ウェブ展示)更新。
- デジタル化された貴重資料を使い、高知市立高須小学校で出前講座を実施(2/13)。

成果と課題 (○: 成果 ■: 課題)

①高知県にとって必要な資料の収集

- 県民・市民から提供された貴重な資料について、「こうちミュージアムネットワーク」と共に保存場所や受入先を検討したことで、貴重資料の散逸を防いだ。
- 県内の文化施設等では、収蔵スペースに余裕がないことやマンパワーが十分でないことなどから、貴重な資料の受入れには限界がある。



県内市町村の紹介展示

②図書以外の資料の収集

- 市町村の観光情報などを紹介展示することで、市町村情報の発信と各市町村が作成した資料の収集につながった。
- ポーン・デジタルの資料(初めからデジタルデータとして作成されたもの)の収集・提供に関する方針等が定まっておらず、引き続き検討が必要。

③貴重資料等のデジタル化

- 「三宮家資料」192点及び「伊東物部関係資料」20点の目録データが完成し、ウェブ・サイトで公開することにより、関係資料の検索がしやすくなった。
- 高知県立図書館デジタルギャラリーにおいて、『順水家記』の翻刻文を公開したこと、原文のみのときよりも読みやすい状態で資料が提供できるようになった。
- 寄贈された『高知県史蹟資料集録』関係写真のデジタル化を行い、ウェブ・サイトで公開したことにより、史跡の存在が広く認知され、教育や研究に活用されやすくなつた。

④デジタル化された貴重資料の提供

- 貴重資料の複製パネルの展示により、図書館が所蔵する貴重資料についてPRできた。
- 貴重資料のウェブ・サイトでの公開件数の増加に伴い、貴重資料の問い合わせや利用件数が増加。
- 高知市立高須小学校にて、3年生87人を対象に貴重資料の画像を使って「高知市と高須のうつりかわり」というテーマで出前講座を行い、貴重資料や地元の歴史についての理解を深めることができた。
- デジタル化に必要な知識等の蓄積をさらに進めていく必要がある。

今後の取組

- 「こうちミュージアムネットワーク」と連携し、小規模館や個人宅にある資料原本の保存を支援。
- 市町村の紹介展示を継続的に実施。
・ポーン・デジタル資料の収集・提供方法について検討。
- 引き続き、所蔵資料のデジタル化を進める。
- デジタル化した資料を収蔵品検索データベースの「図書館のおすすめ」で公開。
・3階展示室において、デジタル画像を用いて作成したパネルを展示。
・デジタル化した貴重資料の、展示や収蔵品データベースでの公開以外の活用のあり方について検討する(商用利用など)。

主な連携先

こうちミュージアムネットワーク

特記事項など

- 県史編さん事業への協力。
- 展示室にて「有名人がやってきた in オーテピア」開催(10/29~12/28)。
- 県立文学館と連携し、高知県ゆかりの作家に関する情報を、QRコードの読み取りにより双方の利用者に提供予定。

3-【1】児童サービス

概要

○子どもたちの心や成長に寄り添い、豊かな読書経験を培う手助けをするとともに、生涯学習の基礎となる情報リテラシーの向上を図ります。
○子育てに関わる大人や、子どもの読書活動を支える大人に対する支援を行います。

サービス指標

こどもカウンターの
レファレンス件数

R 6年度 (R7.3/31現在)
2,870件

R 8年度目標
7,900件

主な取組 (R6.4/1～R7.3/31)

①情報リテラシーの学習機会の提供

- ・図書館見学で、本の分類や並べ方の説明に加え、インターネットを使った検索方法を紹介。

②子どもと本を結びつける活動の実施

- ・通常の展示に加え、高知県立文学館の企画展との連携展示や、南海トラフ地震臨時情報に対応した展示、絵本作家の追悼展示を実施。
- ・毎週のおはなし会とは別に、クリスマスおはなし会を実施。
- ・子どもたちが多様な本に触れ合うきっかけづくりに、展示の本を10冊読む「読書マラソン」を実施。**新規**
- ・園用と学校用と別々に利用案内を作成。
- ・こどもの本の講演会を開催。
- ・団体利用の活用事例まんがを作成。**新規**

③保護者やボランティアなどへの読み聞かせなどの普及

- ・ストーリーテリング勉強会などを定期的に開催。9月には大人のためのおはなし会を開催。
- ・親子絵本ふれあい事業への協力を継続。
- ・佐川高校で絵本の読み聞かせに関する講義、南国市立図書館でわらべうたの研修を実施。

④子育て支援に関する資料や情報の提供

- ・子育て支援の「ぽけぱす」（簡易パスファインダー）を改訂。
- ・子育て講演会とそれに合わせた連携展示を実施。

⑤他機関と連携した取組の実施

- ・高知市立はりまや橋小学校を訪問し、次年度に向けての連携の相談や、学校向けのサービスの紹介等を実施。**新規**

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

①情報リテラシーの学習機会の提供

- インターネットを使った蔵書検索の方法を紹介することで、利用促進につながった。
- 子どもたちが、非来館でも図書館の使い方を学ぶ機会を設けることが必要。

②子どもと本を結びつける活動の実施

- そのとき話題となっている情報について展示を行うことにより、利用者に旬な情報を届けることができ、利用促進につながった。
- 「読書マラソン」によって、子どもが普段自分では手に取らない本との接点を創出し、一人一人の読書の幅を広げることができた。
- こどもの本の講演会により、幅広い利用者に、子どもの本への関心と学びの機会を提供できた。

■ 児童図書選定支援コーナーを利用する団体が限られており、各方面へのPRが必要。

③保護者やボランティアなどへの読み聞かせなどの普及

- 佐川町立図書館でボランティア活動を予定している佐川高校の生徒たちに向けて、読み聞かせ絵本の選び方などを伝えることで、ボランティアの育成につながった。
- 地域で読み聞かせボランティアをしたい人が、団体や個人で活動できる仕組みづくりが必要。

④子育て支援に関する資料や情報の提供

- 情報が古くなっていた子育て支援用の「ぽけぱす」を改訂することで、ウェブ・サイトや本について新しい情報提供ができた。

⑤他機関と連携した取組の実施

- 団体貸出のほか、学校向けサービスについて、学校の現状を聞くなど、今後の参考となる話し合いができた。



中川李枝子さんの追悼展示



クリスマスおはなし会の様子



ぽけぱす

今後の取組

- ①図書館見学の活用や、ブックリストの作成など、情報リテラシーの学習機会を増やす。
- ②児童図書選定支援コーナーのPRを行うとともに、運用の見直しを行う。
 - ・「こどもの本の講演会」を実施。
 - ・こどもの読書週間事業として「読書マラソン」を実施。
 - ・教職員向けに団体貸出の活用を周知する取組として、近隣校への訪問について検討。
 - ・作成した活用事例まんがを使い、団体貸出について積極的に広報を行う。
- ③読書ボランティアと地域をつなぐ方法について、高知市の関係課に相談して検討。
- ④連携先と講演会の共催や図書展示を継続して実施。

主な連携先

高知こどもの図書館、市子ども育成課、高知県心の教育センター、高知学園短期大学、高知県立文学館

特記事項など

- ・ティーンズ・多文化サービス担当と共に教育研究所を訪問し、サービスの説明を実施。
- ・高知市地域子育て支援センター連絡会（6月）・高知市園長事務連絡会（9月）でサービス説明を実施。

3-【2】ティーンズ・サービス

概要

- ティーンズ世代の多様な興味・関心に応える本や学習内容を深めることができる本などを提供します。
- イベント・企画展示の実施やPR活動などにより、図書館利用のきっかけづくりと読書機会の創出に取り組みます。

サービス指標

ティーンズからの投稿件数

R 6年度 (R7.3/31現在)

14件

R 8年度目標

50件

主な取組 (R6.4/1~R7.3/31)

- ①ティーンズを主体とした読書普及活動の実施
 - ・「オーテピアティーンズ部」の自主企画であるリレー小説を冊子化し、部員に配布。**新規**
 - ・春野高校等と図書連携展示を実施。
 - ・全国高等学校ビブリオバトル2024高知県大会(11/17)を開催。TSUTAYA中万々店と連携し、バトル本の情報提供を行った。**新規**
- ②情報リテラシーの学習機会の提供
 - ・パスファインダー2種改訂。
 - ・「ぽけぱす」(簡易パスファインダー)2種作成(探究学習・防災)、7種改訂。
 - ・ブックリスト8種作成、2種改訂。
 - ・清和女子高校、山田高校の生徒に図書館活用講座を実施。その他県内中学・高校にもオリエンテーションや図書館見学を実施(6校)。
 - ・(株)日本政策金融公庫主催の「高校生ビジネスプラン・グランプリ」に応募するためのプラン作成講座を実施(7/27、8/22)。
 - ・高校訪問時に教職員や生徒向けのサービス、図書館活用講座についてPR等を実施(10校)。
- ③他機関と連携した取組の実施
 - ・7~8月に県・子育て支援課、高知県思春期相談センターPRINK(プリンク)と連携展示を実施。連携してブックリストも作成。
 - ・12月に高知市教育支援センター「みらい」と連携展示を実施。併せて、出前講座「クリスマスPOPづくり」を行い、後日、連携展示の案内を含めた館内ツアーを実施。また、3月に「本づくり工作教室」出前講座を実施。**新規**
- ④ブログ、SNSの活用
 - ・イベントや連携展示、新規作成ブックリスト等についてInstagram等で情報を発信。

成果と課題 (○: 成果 ■: 課題)

- ①ティーンズを主体とした読書普及活動の実施
 - ビブリオバトルでは、参加者から「おもしろかった」「良かった」などの声があり、ビブリオバトルの魅力を伝えられ、新たな本との出会いを創出できた。
 - TSUTAYA中万々店と連携することで、開催行事のPRにつながった。
 - 受験などの理由でティーンズ部メンバーが減少傾向にある。メンバーを増やすための工夫が必要。
- ②情報リテラシーの学習機会の提供
 - 山田高校の生徒への図書館活用講座は、リサーチクエスチョンへの回答用参考図書の提供と館内見学ツアーが特に好評であり、図書館の利用促進につながった。
 - 「高校生ビジネスプラン・グランプリ」プラン作成講座では、ビジネスプランの作り方や、データベースを含む図書館資料の活用方法が紹介でき、高校生の将来に役立ち、図書館の利用につながる内容となった。



山田高校の生徒への図書館活用講座



高知県思春期相談センターPRINK(プリンク)との連携展示



「高校生ビジネスプラン・グランプリ」プラン作成講座

③他機関と連携した取組の実施

- これまでの関係づくりの成果として、市教育支援センターから、オーテピアでの不登校相談会の実施など、新規連携事業の相談が複数あった。

④ブログ、SNSの活用

- ビブリオバトルの発表者・観戦者の募集をInstagramでも行い、発信直後から申込みがあった。

今後の取組

- ①・職場体験生などからティーンズの生の声を聞き、今後の活動内容に生かす。
- ・R7年度のビブリオバトルでは、アンケートの実施を検討。
- ・ティーンズ部募集チラシの改訂。
- ・新たなイベントの検討。
- ②・引き続き高校訪問などの機会に、教職員や生徒向けの図書館活用講座についてPRを行う。
- ③・高知県心の教育センターなどの関係機関との連携を強化し、多様な事情を抱えるティーンズに図書館サービスを届ける方法を検討。
- ・市教育支援センターと連携して不登校相談会を実施。
- ④・引き続きInstagram等でこまめに情報発信を実施。

主な連携先

高知県心の教育センター、高知市教育研究所、日本政策金融公庫

特記事項など

- ・児童サービス担当・多文化サービス担当と共に教育研究所を訪問し、サービスの説明を実施。

3-【3】多文化サービス

概要

- 日本語を学習するための資料のほか、地域で生活するためのさまざまな情報や知識を、外国語ややさしい日本語で提供します。
- 異文化を知るきっかけや、多様化する高知県在住の外国人の生活に役立つ情報を提供します。

サービス指標

ブックリストやパスファインダーの提供数

R 6年度 (R7.3/31現在)	R 8年度目標
26種	31種

主な取組 (R6.4/1～R7.3/31)

- ①資料の収集・提供
 - ・関係機関に働きかけ、イベント等で出前図書館や図書館のサービスチラシの配布等を行い、サービスや所蔵する資料をPR。
 - ・姉妹・友好都市（常設）、ベトナム関連、外国人材雇用の関連展示を実施。
 - ・**多言語版おすすめ本アンケートの設置。** 新規
 - ・国際交流員と協力し、ベトナム語図書を選書。
- ②情報活用のサポート
 - ・**外国人向けに図書館活用講座、やさしい日本語図書館ツアーを実施。**
 - ・外国人向けの活用事例まんがを各機関へ配布。
 - ・**「外国人にルーツがある子どもの支援者のための本」など、ブックリストを2種作成。** 新規
- ③他機関等との連携
 - ・国際交流員のおすすめ本を継続して展示。
 - ・「高知県外国人材受入・活躍推進プラン」に係る予算に基づき、市町村立図書館等から要望のあった資料を収集・提供。
 - ・**外国人にルーツがある子どもを対象とした支援について、高知市教育研究所と協議。** 新規
 - ・**香美市での多文化共生講座(KIA主催、高知県、香美市と共催)の実施、日本語教室活用推進セミナー(中小企業団体中央会主催)で図書館活用をPR。**
- ④各種催しなど
 - ・外国語のおはなし会、多文化理解講座を実施。
 - ・ベトナムふれあい体験会(県文化国際課と共に)、多文化共生ワールドツアー(JICAと共に)、語学ボランティア通訳・翻訳セミナー、やさしい日本語セミナー(KIAと共に)、インドネシア文化体験(市総務課と共に)等を実施。

成果と課題 (○: 成果 ■: 課題)

①資料の収集・提供

- 出前図書館の実施により、外国人利用者の登録を促進できた。
- **アンケートを常設し、希望のあった資料を収集・提供することで利用者のニーズに応えることができている。アンケートの受付数は、イベントでの配布等により増加(受付数22件)。**

- 在留外国人の国籍や言語に対応した外国語資料、支援者や雇用主、地域住民が活用できる資料のさらなる充実が必要。

②情報活用のサポート

- 外国人を対象にした、図書館活用講座や図書館ツアーにより、多文化サービスを知つもらう機会を提供できた。
- **関係機関のニーズに対応した新規ブックリストが提供できた。**
- 学習者・指導者向けの日本語教育資料が混在しており、利用者が探しにくい。
- パスファインダーのさらなる充実が必要。

③他機関等との連携

- 関係機関からイベントへの協力・参加の呼びかけもあり、**連携・協力体制が強化されてきている。**
- 香美市での多文化共生講座では、香美市立図書館と協力して資料の貸出しやサービス案内を実施。外国人対象の活用講座(オンライン)では、地域の図書館の紹介を行うなど、**地域の図書館を通じた利用についてPRできた。**
- 在留外国人向け図書館サービスは、まだ認知度が低く、継続的なPRが必要。

④各種催しなどの実施

- 外国語のおはなし会や多文化理解講座では、県内で在留者の多い国の文化の紹介や、外国人との交流等を行うことにより、多文化理解を深める場になっている。
- 関係機関と連携することで、外国人から直接、各国を紹介してもらう催しなど、多種多様な内容で実施することができ、多文化サービスの幅広いPRにつながっている。



出前図書館
「グローバルキャリアフェア」



多言語版おすすめ本アンケート



外国人労働者を対象とした
図書館館内ツアー

今後の取組

- ① 「高知県外国人材受入・活躍推進プラン」に係る予算を併用し、資料の収集を継続。
 - ・継続的に広報を実施。
 - ・「外国人雇用啓発月間」や「日本語能力試験」など、関連展示を実施。
- ② 在留外国人向け図書館活用講座を継続。
 - ・日本語教育資料の配架の見直し。
 - ・在留外国人に向けた、図書館利用促進のためのPRの実施(各種広報媒体の活用など)。
 - ・パスファインダーの作成。
- ③ 市町村立図書館等からの需要に合わせて、多文化サービス支援用図書セットを拡充。
 - ・高知市教育研究所との連携を強化。
- ④ 「HELLO WORLD外国語のおはなし会」(主催)、「English Nook親子でたのしむ英語じかん」(共催)を実施。

主な連携先

高知県国際交流協会(KIA)、県国際交流課、県雇用労働政策課、市総務課、高知県外国人生活相談センター(ココフォーレ)、JICA高知デスク、(一社)高知ベトナム交流会、高知県中小企業団体中央会等

特記事項など

- ・**第110回全国図書館大会長崎大会にて、多文化サービスの取組事例を発表。**
- ・**全国公共図書館多読資料調査と視察に対応。**

3-【4】図書館利用に障害のある人へのサービス

概要	<p>○オーテピア高知声と点字の図書館と連携し、図書館利用に障害のある人に配慮したサービスを提供するとともに、サービスの積極的なPRを行います。</p> <p>○多様な資料やサービス、コミュニケーション手段により、ユニバーサル・デザインの考えに沿った利用しやすい環境を整えます。</p>	サービス指標	R 6年度 (R7.3/31現在)	R 8年度目標 (見直し前)
			宅配貸出サービスの利用件数	48件
			対面音訳サービスの利用件数	1,000件
			1,200件(780件)	1,200件(780件)

主な取組 (R6.4/1~R7.3/31)

①バリアフリー資料の収集・提供

- ・大活字本やLLブックなど、多様なバリアフリー 資料を収集して展示。
- ・令和5年度に引き続き、図書展示「布絵本コーナー」を設置。
- ・手話言語の国際デーや障害者週間など、タイマーな展示を、専門機関との連携などにより実施。

②イベント

- ・7/28、1/26手話で楽しむおはなし会（協力：聴覚障害者協会）を開催。
- ・11/3バリアフリー映画会を開催。バリアフリー資料や機器を展示。

③対面音訳ボランティアの養成

- ・ボランティア養成講座、読みの調べ方講座、「オーテピア高知声と点字の図書館」と連携し、対面音訳ボランティアスキルアップ研修を実施。

④サービス対象者及び支援者への広報

- ・高知市居宅介護支援事業所協議会総会や発達障害者支援センター、療育福祉センター部長会議、ルミエールオンラインサロンなどでサービスを紹介。
- ・動画版「手話で楽しむおはなし会」を新たに公開（6月・3月）。
- ・高知健康科学大学との共催イベントでバリアフリー機器を紹介。
- ・高知ふくし機器展、障害者週間の集い、県療育福祉センターの研修にて出前図書館を実施。

成果と課題 (○: 成果 ■: 課題)

①バリアフリー資料の収集・提供

- バリアフリー資料コーナー以外でも布絵本を展示することで、より多くの利用者に資料がアピールでき、手に取られる機会が増えた。
- 最新情報を提供するため、随時、ブックリスト等の改訂が必要。

②イベント

- 手話で楽しむおはなし会が、当事者だけでなく、手話に興味がある方が理解を深める機会になっている。7/28には、聴覚障害者2名（補聴器具の装着等で確認）など36名の参加があった。1/26には、参加者68名と多くの参加があった。他の図書館の職員や手話を学ぶ大学生の参加もあり、他の図書館や団体の参考にもなっている。
- バリアフリー映画会：参加者約70名（定員60名）
資料や機器の展示により、サービスやコーナーをPRできた。

③対面音訳ボランティアの養成

- 読みの調べ方講座：受講者19名
対面音訳ボランティアスキルアップ研修：受講者10名
ボランティア活動に必要な知識や技術の向上の機会を提供できた。

④サービス対象者及び支援者への広報

- 発達障害者支援センターへの訪問をきっかけに、療育福祉センター部長会議でサービスの紹介が実現した。
- 出前図書館の実施により、図書館への来館経験の有無に関係なく、県民・市民に対して、課題解決に役立つ資料やサービスを提供していることをPRできた。
- 手話で楽しむおはなし会<動画版>
どちらも再生回数が300回を超えており、来館が難しい方にもサービスを提供できた。
- 今後も、サービス対象者やその支援者、関係機関等に情報を届けるため、多様なPR及びその効果の評価方法について検討・実施が必要。



11/3 バリアフリー映画会

11/29-11/30 高知ふくし機器展
出前図書館12/15 対面音訳ボランティア
スキルアップ研修

サービス指標

R 6年度 (R7.3/31現在)

R 8年度目標 (見直し前)

48件

60件

1,000件

1,200件(780件)

今後の取組

- ・バリアフリー資料の収集、展示を継続。
・ブックリストの作成、改訂を継続。
- ・手話で楽しむおはなし会を継続して開催。
- ・読みの調べ方講座、スキルアップ研修について、声と点字の図書館と連携して実施。
- ・当館のSNSや県市職員向け電子掲示板などでサービスの紹介を継続。
・市町村立図書館、特別支援学校等への訪問によるPRを継続。
・第3期サービス計画に向けたアンケート調査などをもとに、効果的な広報について検討。

主な連携先

県障害福祉課、県聴覚障害者協会、県療育福祉センター、ルミエールサロン、高知声と点字の図書館、カラーユニバーサルデザインをすすめる会チーム高知

特記事項など

- ・高知県読書バリアフリー計画を策定 (R7/1)

4-【1】市町村立図書館等への支援 (県立図書館機能)

概要	<p>○協力貸出等の物的支援と市町村職員を対象にした研修事業等の人的支援により、県全体の図書館サービスの充実と職員のスキル向上に取り組みます。</p> <p>○東部・中央・西部の各ブロックの担当職員を置き、課題解決支援サービスのノウハウを共有するなど、各市町村の状況等に応じた支援を行います。</p>	サービス指標	R 6年度 (R7.3/31現在)	R 8年度目標(見直し前)
			協力貸出点数 41,326点	40,000点(35,000点)

主な取組 (R6.4/1~R7.3/31)

- ①巡回訪問や依頼訪問等による支援
 - ・図書館等の運営支援のための巡回訪問を実施。
 - ・図書館振興計画の目標達成に向け、県生涯学習課と定期的な打合せを実施。
- ②情報提供
 - ・ブログやメールによる情報発信。
 - ・「高知県内図書館協力マニュアル」を改訂。
 - ・**県立図書館による多様な支援を簡潔に伝えるため、市町村立図書館等向けのチラシを作成。**新規
 - ・研修実施時に、セット資料の現物を展示。新規
 - ・「図書館サービスのヒント集」チラシ第2弾の作成・提供(県図書館協会事業)。新規
- ③研修の実施
 - ・図書館等職員のスキルアップ向上を目的に、図書館サービス研修(5回)、ブロック別研修(3地区延べ6回)、どこでも・いつでも研修(4回)を実施。
- ④課題解決支援サービス実施への協力
 - ・物流システムの活用や協力レファレンス等により、図書館等に資料・情報を提供。
 - ・各市町村の課題に応じ、情報・資料を提供。
 - ・「高知県外国人材受入・活躍推進プラン」に係る予算に基づき、市町村に資料を提供。
 - ・**香美市での多文化共生イベント(KIA主催)及び日本語教室活用推進セミナー(中小企業団体中央会主催)で図書館活用をPR。**(再掲)新規
 - ・**当館作成のパスファインダーひな形の提供。**新規
- ⑤移動図書館による支援
 - ・利用が見込まれる資料を購入して運行。

成果と課題 (○: 成果 ■: 課題)

- ①巡回訪問や依頼訪問等による支援
 - 図書館等からの求めに応じた情報を提供することで、業務をサポートできている。また、巡回訪問で把握した図書館等の実態や課題等を県生涯学習課と共有することで、行政の動向を踏まえた働きかけを検討できた。
 - **新館整備中の佐川町に対して定期的に訪問し、情報提供ができた。**
 - 図書館現場だけでは解決が難しい課題を抱える市町村には、行政を巻き込んだ働きかけが必要。
- ②情報提供
 - **宿毛市立坂本図書館の地震被害(R6.4.17発生M6.6)を県内の図書館等や市町村の担当課と共有するとともに、地震対策について確認を促すことができた。**
 - 県内図書館間の効果的な情報共有ツールになるように、新システムの検討が必要。
- ③研修の実施
 - ブロック別研修会では、バリアフリーサービスをテーマに自館の現状を確認するとともに、サービス開始・普及へ目を向ける機会を提供できた。実施後、**さらなる研修の希望や各館でのサービス展開、R7年度予算確保につながったなどの反響があった。**
 - 図書館等からの求めにより、SNSを活用した広報やレファレンスツール研修を実施。当館での実施方法やノウハウを共有できた。
 - 参加が少ない公民館図書室・小規模図書館に有益な研修の機会が必要。
- ④課題解決支援サービス実施への協力
 - **市町村立図書館での多文化サービスの取組が拡大しつつある**(土佐市等での在留外国人に向けた日本語学習資料の提供、四万十市での企業(介護職の外国人材雇用)への団体貸出、香美市での地域日本語教室の開設に向けた多文化共生イベントの実施等)。
 - **にほんごサロンでの図書館活用について協議するため、担当課を訪問(安芸市)。**
 - **バリアフリーサービスに関連し、南国市、香南市、室戸市、四万十町などへ高知声と点字の図書館と同行訪問し、環境整備やサービスの実施を促すことができた。**
- ⑤移動図書館による支援
 - 図書館未設置町村を中心に資料の提供ができた。
 - 図書館未設置町村への支援の重点化に向け、具体的な検討が必要。



図書館サービスのヒント集NO.2
読書バリアフリーサービス編

今後の取組

- ①・県生涯学習課と情報や取組方針を共有する機会を継続して設ける。
 - ・重点的な働きかけを要する図書館及び行政の担当部署へ、生涯学習課との同行訪問を検討。
- ②・ブログ等での情報発信を継続。
 - ・新システムに搭載する機能について検討。
 - ・**NHK連続テレビ小説「あんぱん」連携展示の実施に向けて、関係図書館と調整。**
- ③・**公民館図書室・小規模図書館等による情報交換会等について検討。**
 - ・いつでも・どこでも研修のテーマの充実に向けて検討。
- ④・各市町村の課題に合わせて資料を収集・提供。
 - 特に、外国人材の確保・活躍に関する分野について、図書館等のニーズも考慮し、資料の充実を図る。
 - ・市町村立図書館での空き家相談会にて、関係機関との仲介とともに、関連資料を提供を予定(津野町等)。
- ⑤・各市町村の図書館整備状況等を考慮しながら、図書館未設置町村への支援の重点化を図る。

特記事項など

- ・新図書館支援の予算に基づき、土佐市立市民図書館への資料面での支援を実施。
- ・R6年度全国公共図書館研究集会兼高知県図書館大会を11月に開催(県図書館協会事業)。

4-【2】高知市全域サービスの拠点（市民図書館機能）

概要

- オーテピア高知図書館(本館機能)と6つの分館、15の分室、2台の移動図書館が一体となり、高知市内全域で図書館サービスを展開します。
- 児童生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を支えられるように、高知市内の小・中学校、義務教育学校、特別支援学校との連携・協力を強化します。

サービス指標

	R6年度（R7.3/31現在）	R8年度目標（見直し前）
分館・分室・移動図書館利用者数	279,521人	31万人(28万人)
分館・分室・移動図書館貸出点数	1,245,158点	1,363,000点(1,316,000点)
市内小中学校等への団体貸出点数	10,690点	11,200点

主な取組（R6.4/1～R7.3/31）

①学校図書館との連携

- ・学校図書館支援員研修で講義を実施（5/10）。
- ・学校図書館や各学級に対するセット貸出などの団体貸出の実施。
- ・児童図書優良図書展示会及び学校図書館支援員・司書教諭向け講演会（7/30～8/2）を開催（共催：高知県書店商業組合、広報連携：市学校教育課）。
- ・教育研究所や教育支援センターの事業実態に合わせた団体貸出を開始（学校サポートルーム、通所施設、SSWなど）。
- ・活用事例まんが作成のため、はりまや橋小学校を訪問。学校図書館支援員と教員にインタビューを実施。新規
- ・『Google Classroom』（学校図書館支援員とのコミュニケーションツール）の活用を検討。新規

②分館・分室、移動図書館の活性化

- ・活性化に向けてカルテを作成（R6カルテ取組対象5分室）。
- ・分室職員と土佐山学舎を訪問。分室利用や学校図書館向けのサービスについて説明。新規
- ・分館・分室紹介冊子を作成。分館・分室紹介展示をオーテピアとみませ祭で実施。新規
- ・各館を巡るシールラリー、本館職員による定期訪問、本館資料の活用展示を実施。また、分館・分室の館内写真をウェブ・サイトへ追加。
- ・分館・分室による取組発表を実施。
- ③接遇力や利用サービスの向上
 - ・毎月の業務協議研修会で、交流要素も含めた基本業務研修を実施。（12月は読書会実施）

成果と課題（○：成果 ■：課題）

①学校図書館との連携

- 教育研究所との意見交換により、不登校や外国にルーツのある子どもへの新たな連携や支援方法について話が進んだ。7団体の利用登録があり、団体貸出が増えている。
- 学校訪問により、教科書改訂後に調べ学習の時間が半減し、授業の方法が変わっていることが判明。改めて学校現場の意見を聞き、支援方法の再検討が必要。
- 高知市立学校教職員向け（高校除く）の団体貸出の周知が不足。また、従来の学校向けの団体貸出との区別が必要。※教職員向け団体貸出4件（R6.4～R7.3月末）

②分館・分室、移動図書館の活性化

- R6年度カルテ取組対象に加わった分室は、他館の取組事例等を参考に、運営の工夫や出前図書館の実施など自発的に取り組んでおり、意欲の向上が見られた。
- 分室職員との学校訪問により、新規の団体登録や分室の団体貸出につながった。
- 分館・分室紹介展示は、XやFacebookで広報を行い、分館・分室の周知、利用促進につながった。
- 分室職員から、一人勤務が多い中、困ったことがあったときに本館とのやりとりができるようになり、仕事がしやすくなったとの声があった。
- 本館職員が訪問時に提案や助言を行うことで、利用者が使いやすい環境が整った。
- 教育支援センターとの連携事業「クリスマスPOPツリー」（ティーンズ・サービス）を契機に、隣接する潮江市民図書との連携が強化され、職場体験の受入れや配本活動など、新たな取組につながっている。
- 本館資料の活用展示コテピアは、月平均230冊以上の利用があり好調。
- 学校図書館担当教員は多忙なため、学校での子どもたちの読書環境は学校図書館支援員によって左右される。支援員研修など、質の向上に向けて引き続き協力が必要。
- 分館・分室における団体貸出について、利用しやすい方法の検討が必要。
- 分館・分室で所蔵資料が増加しており、計画的な除籍が必要。

③接遇力や利用サービスの向上

- 分館・分室職員の基本業務の習得機会や調査能力の向上に資する環境を構築できた。読書会や選書会の実施により、職員間の交流が促進された。
- 均一なサービスを目指すため、分館・分室の職員が使いやすいように、マニュアルを改訂して周知することが必要。



分館・分室紹介展示（8/2-8/31）
「図書館と地域を巡る旅 図りつぶ」

今後の取組

- ・学校現場の現状やニーズ把握のため、オーテピア近隣の小学校を順次訪問予定。
(R7.3月：はりまや橋小学校を訪問済)
- ・団体貸出チラシの作成。
- ・本館職員の訪問や、毎月の業務協議研修会での交流も含めた基本業務研修を継続して実施。
 - ・カルテを活用した活性化のための取組を検討し、実施後の検証を随時行う。取組を一覧化して共有。
 - ・視聴覚資料版コテピアの継続実施。
 - ・シールラリーの対象者拡大。
 - ・本館職員による分館・分室への1日インターンシップを実施。
- ・市民図書館全体で計画的な除籍を実施。

特記事項など

- ・高知市地域共生社会推進本部防災福祉部会（市の横断的な組織）の勉強会でサービス説明を実施（5月）。令和7年度も実施できないか担当課に打診中。
- ・高知市不登校支援推進協議会で、今後の不登校支援の取組について発表（11月）。

4-【3】県立学校図書館等との連携・協力 (県立図書館機能)

概要

- 生徒たちが読書を楽しみ、自ら必要な資料・情報を探し活用して学ぶ力を身につけるための支援を学校図書館と連携・協力して行います。
- カリキュラムや生徒のニーズに対応する資料の収集・提供等により、生徒の学びを支えるとともに、教職員等に対する研修や講座等を実施します。

サービス指標

R 6年度 (R7.3/31現在)

団体貸出点数

3,941点

R 8年度目標 (見直し前)

10,000点 (2,200点)

主な取組 (R6.4/1~R7.3/31)

- ①学校への資料の貸出しやレファレンスへの協力
- ・デジタル、グリーン、グローバルの各分野の資料を収集・提供。
 - ・県高等学校課主催の情報科教育研修で、図書セットを展示。[「高知県電子図書館」の登録・利用について説明を実施。](#)
 - ・高知工科大学による特別授業に合わせて、関連資料を追手前高校へ団体貸出。

②学校や関係機関との連携の実施

- ・[主任実習助手の配置校を訪問し、担当校の図書館の状況を聞き取り。](#)
- ・パネル展を2校で実施。
- ・訪問等の機会に、「高知県電子図書館」の登録・利用と探究成果物の掲載について周知。
- ・[若草特別支援学校など、県立学校の生徒を対象に図書館見学を実施。](#)
- ・新校舎移転を控える清水高校の求めに応じて、図書館資料の選書について情報提供。
- ・[県高等学校学校図書館協議会の役員担当校を訪問し、研修事業について説明。](#)

③図書館活用講座等の実施

- ・高知中央高校看護学科や、山田高校グローバル探究科の生徒を対象に、図書館データベース活用講座を実施。
- ・[高知東高校を訪問し、医中誌Webデータベース講座の実施について看護科長等と協議。](#)

④学校司書等の研修への協力

- ・産業教育研究会商業部会や学校図書館関係教職員向け研修等でサービスの説明を実施。
- ・市町村立図書館等職員向けの図書館サービス研修やブロック別研修会を学校司書等に案内。

成果と課題 (○: 成果 ■: 課題)

①学校への資料の貸出しやレファレンスへの協力

- 各校の取組や動向を把握して個別にアプローチすることで、学校が必要としている資料を提供できた。
- 特定教科の悉皆研修において、図書セットの展示やサービスの説明を行うことにより、全校の教職員への広報ができた。また、学校のニーズを把握することができた。
- 市町村立学校や私立学校を含め、「高知県電子図書館」の利用登録（新入生の追加登録を含む）を行っていない学校へ新たに作成した登録案内のチラシ等を送付し、登録が進んだ（R6年度県立学校新規登録19校2,983人。累計14,305人）。また、探究学習成果物44点を追加（累計185点掲載）。
- デジタル、グリーン、グローバルの各分野の図書セットについて、具体的な活用方法の提示など、さらなる周知が必要。
- 電子図書館の利用促進のため、さらなる周知が必要。

②学校や関係機関との連携の実施

- [主任実習助手への訪問により、県東部及び西部の県立学校図書館の状況や課題を把握できた。これにより各校のニーズに対応した訪問ができるようになった。](#)
- パネル展や連携展示により、各校の特色ある取組を来館者に紹介することができ、学校のPRにつながった。
- [県高等学校学校図書館協議会との連携につながる情報共有ができた。](#)

③図書館活用講座等の実施

- 教科教育に沿ったより実践的なデータベース講座を実施できた。
- 図書館での情報の探し方や情報リテラシーに関する理解を広めることができた。また、探究テーマに関連する資料を講座で紹介することで、貸出しにつながった。
- [講座に参加した学校から、生徒の情報活用能力が向上したとの声があった。](#)

④学校司書等の研修への協力

- 図書館サービス研修やブロック別研修会を学校司書等に案内してきたことで、県立学校教職員の恒常的な参加につながった。
- 学校図書館関係教職員向け研修で、サービスに関するニーズ調査ができた。

図書館活用講座 (7/25県立山田高校グローバル探究科) ▶



今後の取組

- ①利用実績のある学校を主な対象として、学校司書等の関係教職員に授業でのセット図書の活用を提案。
- ・学習に役立つ電子書籍を充実させるため、引き続きニーズの聞き取りを実施。
- ・県高等学校課、県私学・大学支援課と情報共有をしながら、未登録校を訪問し、登録を促すとともに、端末を持参してデモンストレーションを行うなど、「高知県電子図書館」や「Kinoden」の活用についてPR。
- ②主任実習助手への聞き取りで得た情報を踏まえて、学校図書館や関係課等を訪問。
- ③特色ある学科を有する学校を主な対象として図書館活用講座等を企画し、教職員を対象にした研修や学校訪問の際に提案。
- ・教職員向け広報紙に図書館活用講座の案内を掲載。
- ④教職員を対象にしたサービス説明を校内研修で実施できるよう、学校訪問の際に提案。
- ・教職員の研修会等でサービスの説明ができるよう、主催の県高等学校課、県私学・大学支援課、県特別支援教育課と協議。
- ・新任の学校司書等向けの研修動画を作成。
- ・教職員向けの図書館見学を実施。

特記事項など

- ・高知警察署との共催で就職相談会を実施。
- ・高知県立学校の図書館の蔵書の整理について、学校や特別支援教育課と協議。

4-【4】大学等の教育・研究機関等との連携・協力

概要

- 教育・研究機関に対して、当館の有する資料・情報を生かし、ニーズや必要性に応じて活動をサポートします。
- 多くの人に利用されている当館の強みを生かし、イベント等の共催や、広報活動の支援などにより、相乗的な効果が発揮できるように積極的に連携を進めます。

主な取組 (R6.4/1～R7.3/31)

※個別サービスでの取組は各サービスのシート内に掲載

①大学等の教育研究機関との連携

- ・高知健康科学大学と連携講座や共催イベント（親子向け）、学生対象の図書館活用講座を実施。
- ・高知リハビリテーション専門職大学と連続講座や連携展示を実施。
- ・9月の「がん征圧月間」・「世界アルツハイマー月間」に合わせて、県内の大学図書館などで巡回展示を実施。
- ・高知大学学術情報基盤図書館との相互協力協定の再締結。
- ・**高知健康科学大学附属図書館との相互協力協定の締結。** 新規

②出前図書館等での資料の紹介・提供

- ・連携講座の会場で、図書館サービスの説明や資料の貸出しを実施。

③アウトリーチ・サービスの実施

- ・高知県立大学との連携について協議。

④学生ボランティア等との協働

- ・高知学園短期大学幼児保育学科保育研究会による読み聞かせや本の修理、壁面デコレーションを実施。
- ・高知県立大学「オーテピアンズ」による当館SNSでの情報発信、「大人の方へ贈る読み聞かせ」第5弾の制作及びオーテピアンズ公式YouTubeチャンネルでの配信。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

①大学等の教育研究機関との連携

- 学生に対して、図書館の活用方法について伝えることができた。
- 継続的に連携事業を行うことで、各大学の取組の周知や利用者への医療健康情報の提供に寄与した。
- 図書館活用講座の参加者が、講座受講後に利用カードの登録や電子図書館の利用申請を行うなど、その後の利用拡大につながった。
- **高知大学次世代地域創造センターとの連携による調査・研究として、助成事業に応募したが、採択されなかった。他の実施方法について検討が必要。**
- **高知健康科学大学附属図書館の新館開館後の具体的な協力の内容について協議が必要。**

②出前図書館等での資料の紹介・提供

- 継続的な実施により、学生を対象にした図書館活用講座が定着してきている。

③アウトリーチ・サービスの実施

- 地域課題の解決を目指す大学の事業（リ・デザインプロジェクト）に絡めた連携のあり方について協議ができた。
- **図書館以外の大学の部署との連携・協力に当たっては、図書館を巻き込んだ調整が必要。**
- 連携先が限定的になっており、特に、複数の学部や機関等を有する大学については、一つの部署で満足することなく、連携の拡大に向けた働きかけが必要。

④学生ボランティア等との協働

- 学生の専門知識や企画力を生かした活動が、図書館サービスの充実につながった。
- 活動を通して、図書館サービスへの理解を深め、保育の現場で役立つスキルを身につける機会が提供できた。
- 当館SNSに学生の視点で投稿してもらうことで、本の紹介や当館の魅力を親しみやすく発信できた。
- 読み聞かせ動画の配信により、非来館者にも読み聞かせを楽しむ機会を提供できた。

今後の取組

- ①・連携実績がない大学等に対して、アウトリーチによる働きかけを実施。
- ・**高知大学次世代地域創造センターとの連携による調査・研究について、今後の対応を協議。**
- ・**高知健康科学大学附属図書館との協議の場を設ける。**
- ②・資料のさらなる貸出しにつながるよう、講座の内容に即したブックリストの作成等を検討。
- ③・**リ・デザインプロジェクトでの連携を進めるため、改めて協議。**
 - ・各大学等の図書館や関係部署を訪問し、各館の取組状況や意向等について情報収集・意見交換を実施。
- ④・学生の専門性や企画力を生かした活動を引き続きサポート。

主な連携先

高知大学、高知県立大学、高知工科大学、高知リハビリテーション専門職大学、**高知健康科学大学**、高知大学医学部、高知工業高等専門学校、高知学園短期大学 など

特記事項など

4-【5】中心市街地活性化への寄与・周辺施設との連携

概要

○オーテピア高知図書館の資料・情報、司書の専門性、利便性の高い立地といった資源を活用し、中心市街地の活性化に寄与します。
○文化施設等の周辺施設と連携・協力し、各施設の強みや機能の充実・強化を図り、互いの施設の利用促進や情報発信等につなげます。

主な取組（R6.4/1～R7.3/31）

①個々の商店や商店街全般に役立つ図書等の収集・提供
・商店経営の仕方や商店街振興につながる図書
・雑誌などの資料を継続的に収集・提供。
・インバウンドに関するブックリストの作成、関連機関への配布、展示の実施。 新規

②観光情報の収集・発信

・よさこい祭りに合わせて、市地域活性推進課と連携したパネル展示を実施。
・NHK連続テレビ小説「あんぱん」関連の図書展示を実施。

③商店街や日曜市等の情報発信

・日曜市ポスターを1階エントランスホールで掲示。商店街に関するチラシ等を配布。

④商店街との協働

・土曜夜市(7/20)や龍馬生誕祭(11/15)に出店。
・まちゼミ「絵本の修理講座」(3/1)を実施。

⑤図書館サービスのPR

・協同組合帶屋町筋を通して、当館広報紙『コトノハ』を継続配布。

⑥文化施設との連携

・高知県立文学館の企画展「あんびるやすこ作品展」に合わせ、2階こどもコーナーで関係資料を展示。
・「お城下文化の日」でリサイクル本を配布。
また、同日に商店街で開催された国際交流イベントとスタンプラリーで連携(11/17)。

成果と課題（○：成果 ■：課題）

①個々の商店や商店街全般に役立つ図書等の収集・提供
○ 繼続的に商店街振興に役立つ選書をしたことで、経営や販売に関する資料が充実した。

②観光情報の収集・発信

○ 関係課と連携し、よさこい祭りに関する展示を行うことで、祭りの賑わいに貢献できた。また、「あんぱん」関連展示で、ドラマ放送前の機運の醸成に貢献できた。
■ 「あんぱん」により高まっているブックリスト作成の要望への対応が必要。

③商店街や日曜市等の情報発信

○ 来館者の目に触れやすい場所へのポスターの掲示やチラシの設置により、日曜市や商店街のPRに継続的に貢献できている。

④商店街との協働

○ 土曜夜市や龍馬生誕祭では、多くの集客を得て、商店街の賑わいに寄与できた。
○ まちゼミ関連展示やブックリストの配布により、まちゼミ講座や参加店舗のPRができた。講座で本の修理を取り上げ、本に対する意識の向上が図れた。

⑤図書館サービスのPR

○ 帯屋町商店街の関係者と定期的なつながりを持つことで、図書館のPRができた。
■ PR方法について引き続き検討が必要。

⑥文化施設との連携

○ 「お城下文化の日」では、2,456冊のリサイクル本を配布し、資料の有効活用につなげるとともに、史跡をめぐる「まちあるき」には定員を超える参加があるなど、好評を得た。
■ 「お城下文化の日」以外での施設間の連携について検討が必要。



龍馬生誕祭でのリサイクル本の配布



お城下文化の日の様子



まちゼミの様子

今後の取組

- 展示等を通じて、引き続き観光情報を発信。
「あんぱん」に関連した展示を、場所を変えながら放送終了まで実施。併せて、展示資料のブックリストを作成、公開。
- 日曜市のPRポスターや商店街のパンフレット等を継続して掲示・配布。
- 土曜夜市に参加（7月）。
・龍馬生誕祭に参加（11/15）。
・まちゼミに参加（時期未定）。
- 広報紙の配布やイベント等の機会をとらえて、商店街の方へ図書館サービスをPR。
- 県立文学館との協議結果を踏まえ、高知県ゆかりの作家に関する情報を、双方の利用者に提供する仕組みをスタートさせる。

主な連携先

市商業振興・外商支援課、市地域活性推進課、協同組合帶屋町筋、高知商工会議所、高知お城下文化施設の会

特記事項など